2023年度大学入学共通テスト 解説〈日本史B〉

第１問　地図から考える日本の歴史

第１問では，正誤を組み合わせる問題が２問，４つの文から正文を１つ選ぶ問題，２つの文の正誤を判断する問題，空欄補充問題，年代整序問題がそれぞれ１問ずつ出題された。第１問は昨年･一昨年同様，会話文形式での出題だった。特筆点として，史資料が計６点（史料３・資料３）用いられた点があげられる。３つの史料を読み取って正誤を判断する問題は複雑に感じられたのではないかと思われる。

A

問１　[1]　正解は④。

④　**史料３**は「養老２年」(718年）の史料で，ここからは，「石城国」が新設されたことが読みとれる。**大宝律令**は**701年**に制定された。「養老２年」は，**養老律令**が制定された**718年**にあたる（「国郡の行政区画の変更は，大宝律令の制定以降にも行われた」は正しい)。

①　**史料１**には「国造」が「総領」(注に「朝廷から派遣された官人」とある）に「請いて」，郡が設置された経緯が記されている。**史料２**には，「伊勢王」が遣わされて，「諸国の堺」が定められたことが記されている。そのため，「国郡の設定や分割は，地方豪族の話し合いで決定した」は誤り。

②　**史料３**には，「陸奥国……常陸国……との六郡」を割いて石城国を設置したことが記されていた（「石城国は，既存の一か国を分割して作られた」は誤り)。

③「大化改新」は，645年の乙巳の変に始まる一連の改革。**史料１**は「行方郡」についての史料で，注では史料中の「癸丑（きちゅう）の年」について，「653年。以下の記述は，常陸国行方郡成立の経緯を説明している」とされていた（「常陸国行方郡は，大化改新より前に国造の支配領域を分割して作られた」は誤り)。

問２　[2]　正解は③。

Ⅱ　「元への服属に抵抗した三別抄」が反乱を起こしたのは，**13世紀**。

Ⅰ　「天龍寺の造営」のため，幕府が貿易船を元に派遣したのは，**14世紀**。

Ⅲ　「尚巴志が三山を統一して琉球王国を建てた」のは，**15世紀**。

問3 [3] 正解は②。

X　正文。**先生の説明**では，「古代では国家の**非常時に関を封鎖**し，都からの交通路を遮断しているよ。**平城太上天皇の変（薬子の変）の時には，嵯峨天皇が逢坂の関を守らせたんだ**」とされていた（「古代の関には，反乱を起こした人物が地方に逃亡するのを防ぐ役割もあったと考えられる」は正しい）。

Y　誤文。**先生の説明**には，「昆布や，アザラシの毛皮などの北方産物が交易されていた」とあった（「中世では，境界の外側は隔絶された異域と認識され，その地の産物は忌避されたと考えられる」は誤り）。

B

問4 [4] 正解は①。

ア　国絵図には，「酒寄村　八百八十一石余」とされていたため，「各地の村高」が正しいと判断できる。幕藩体制下では，年貢の納入は個々の名請人がそれぞれに行うのではなく，石高を村ごとに集計した**村高**に応じて，村が一括して納入する**村請制**がとられた（「各地の田畑の耕作者」は誤り）。

イ　**伊能忠敬**の測量には，**幕府が東蝦夷地を直轄地としたこと**に関係していた。江戸幕府は，1799年に**東蝦夷地を直轄地**とした（仮上知）。さらに1802年には蝦夷奉行を設置し，まもなく箱館奉行に改めた（永久上知）。伊能忠敬は，1800年に蝦夷地測量を開始し，さらに日本地図を作成するため，全国を対象として測量にあたった。その業績は，忠敬の死の3年後の1821年，弟子らによって「**大日本沿海輿地全図**」として完成した。

　ロシアとのあいだの国境は，伊能忠敬の死後，1854年の**日露和親条約**によって定められた（「ロシアとの間で国境が定められたこと」は，伊能忠敬の測量には関係がないため誤り）。

問5 [5] 正解は②。

X　「朝鮮沿岸に派遣された日本の軍艦が，測量しつつ挑発行為を行ったことをきっかけとして」起こった軍事衝突は，**1875年**の**江華島事件**（→a）。この事件を口実に，翌1876年，日本は朝鮮と**日朝修好条規**を締結した。

b　**甲申事変**は，**1884年**に起こった，金玉均ら独立党によるクーデタ。

Y　「戦争に伴う輸出増加によって海運業が活況」となった「戦争」とは，**第一次世界大戦**（→d）。第一次世界大戦にともなう大戦景気によって，海運業・造船業は活況を呈した。

c　**日露戦争**にともない好景気がもたらされたが，「戦争に伴う輸出増加によって海運業が活況」を呈する状況には至らなかった。なお，日露戦争後の日本経済は，慢性的な不況に陥った。

問6 6 正解は③。

a　誤文。古代の律令制において「国と国との境」が確定していたことは，教科書の裏表紙などに記載されている「古代の行政区画」などの図で確認できる。また，**問3**の**先生の説明**では「山城国と近江国の国境の逢坂山に置かれた関だよ」，「古代陸奥国は，北側は蝦夷と境界を接していたんだ」とされていた。これらは，古代の説明と解釈し得るものだった（「古代の律令制では，七道が行政区画の単位として用いられており，国と国との境は確定されなかったと考えられる」は誤り）。

b　正文。会話文では，「**鎌倉時代**に作られた**地図1**…」，「…これと**同じくらいの時期**に作られた地図」，「すでに存在しない国や，想像上の国も描かれているんだって……」とされていた（「中世では，想像もまじえて，日本列島とそれをとりまく海や地域を描いた地図も作製されたと考えられる」は正しい）。

c　正文。会話文では，「**地図3**は，江戸幕府が諸藩などに命じて作らせた国絵図だよ。江戸時代を通じて，幕府はこのような国絵図を何度も作らせた」とされていた（「近世，幕府が国絵図を提出させたのは，全国を支配していることを確認する目的があったと考えられる」）は正しい。

d　誤文。会話文では，「伊能忠敬の地図は，幕末に日本に来航した外国船が日本近海を測量して海図を作製した際にも利用された」といった発言が確認できる（「近代になると，陸の地図より海図が重視され，それ以前の日本の地図は顧みられなくなった」は誤り）。

第２問　日本古代の陰陽道

第２問では，正誤を組み合わせる問題が２問，４つの文から正文を１つ選ぶ問題，２つの文の正誤を判断する問題，年代整序問題がそれぞれ１問ずつ出題された。教科書に軸足を置いた学習によって解答可能な問題が多かったものの，２つの史料などに向き合う必要のある問４や，大問全体の把握が求める問５には，一定の時間を要したと思われる。

A

問１ [7]　正解は②。

② 「魏志」倭人伝には，**卑弥呼**について，「鬼道を事とし，能く衆を惑はす（鬼道とは**呪術**のこと）」とされている（「卑弥呼は，鬼道〔呪術〕を操る司祭者的な性格をもっていた」は正しい）。

① 縄文時代の遺物として知られる**土偶**は，女性をかたどったものが多い（「男性をかたどったものが多く」は誤り）。

③ **宗像大社**が神としてまつっているのは，「壱岐島」ではなく**沖ノ島**。

④ 古墳時代には，災いから免れるための**祓**，鹿の骨を焼いて吉凶を判断する**太占の法**，などの呪術的な習俗がみられた（「祓とは，身体についた穢を落とし清めるために，鹿の骨を焼く行為をいう」は誤り）。

問２ [8]　正解は③。

X 「八省筆頭の役所」は，**中務省**（→ｂ）。

ａ **兵部省**は，武官の人事や軍事を司った官庁。

Y 「天皇のそばに仕えて機密文書を扱う役所」は，**蔵人所**（→ｃ）。

ｄ **検非違使庁**は，平安京の治安維持を担った役所。

問３ [9]　正解は④。

Ⅱ 「左大臣として政界を主導した」**長屋王**が，「外戚の地位が危うくなった藤原氏兄弟の策謀に陥り，謀反の罪をきせられて自殺した」のは，**729年**。藤原４兄弟による**長屋王の変**についての説明文である。

Ⅲ 「天皇の弟で皇太子であった」**早良親王**が，「新都造営の責任者が暗殺された事件の首謀者とされ淡路国へ流刑となり，その途上で餓死した」のは，**785年**。「新都」とは**長岡京**，「新都造営の責任者が暗殺された事件」とは，桓武天皇の時代に起こった，藤原種継が暗殺された事件を指している。

Ⅰ 「藤原氏を外戚としない天皇によって重用され，その天皇の退位後に右大臣となった」**菅原道真**が，「対立する藤原氏の策謀によって大宰府に左遷された」のは，**901年**。菅原道真は，藤原時平の策謀によって大宰権帥に左遷された。

B

問4 10 正解は①。

X　正文。Bでは「作成された具注暦は……下級官司や地方官衙などでも書き写して備えられた。具注暦は行政の現場で文書行政や徴税納期の管理などに用いられた」，**史料1**では「任国に赴くの時，必ず吉日時を択(えら)び」，「着館(ちゃくかん)の日時は，在京の間，陰陽家において撰定(せんてい)せしむ」，「吉日を択びて，交替政(こうたいせい)を始め行う事」とされていた（「中央や地方の政務には，暦に書かれたその日の吉凶が利用されていた」は正しい）。

Y　正文。Bでは「具注暦は……個人でも利用された。平安時代になると，摂関家や上級貴族たちは，具注暦を入手し，それを利用して日記を書き残すこともあった。それらを見ると，その日に行われた政務や儀式，日常の行動が細かく記されている」，**史料2**（「藤原師輔〔道長の祖父〕が子孫に残した訓戒」）では「暦を見て日の吉凶を知る」，「年中の行事は，ほぼ件(くだん)の暦に注し付け，日ごとに視(み)るの次(ついで)に先ずその事を知り，兼ねてもって用意せよ」とされていた（「貴族の日常生活は，具注暦に記入された暦注に影響を受けていた」は正しい）。

問5 11 正解は①。

a　正文。Bでは「作成された具注暦は，まず天皇に奏上され，天皇から太政官を通じて各官司などに下賜」とされていた（「天皇が暦を下賜したのは，天皇が時間を支配していることを示す意味があった」は正しい）。

b　誤文。Aでは「9世紀以降，情勢が不安定となった東北地方や東国にも陰陽師が置かれるようになった」といった記述が確認できるが，Bでは「陰陽寮の重要な仕事の一つに，暦の作成があった」，「具注暦は……下級官司や地方官衙などでも書き写して備えられた」とされているため，「地方の役所には陰陽師が置かれ，暦を独自に作成していた」は誤り。

c　正文。Bでは「摂関家や上級貴族たちは，具注暦を入手し，それを利用して日記を書き残すこともあった。それらを見ると，その日に行われた政務や儀式，日常の行動が細かく記されている」，**史料2**では「年中の行事は，ほぼ件(くだん)の暦に注し付け，日ごとに視(み)るの次(ついで)に先ずその事を知り，兼ねてもって用意せよ」とされていた（「貴族にとって重要な年中行事は，具注暦を利用した日記に書き込まれ，前々から準備を始めていた」は正しい）。

d　誤文。Aでは「陰陽師は，天皇や貴族たち個人の要請にも応え，事の吉凶を占ったり，呪術を施し……」とされていた（「陰陽師は，物忌・方違や穢の発生など，貴族の個人的な吉凶は占わなかった」は誤り）。教科書にも，平安時代の貴族は，**陰陽道**を重視し，その日常生活に**方違**や**物忌**などの慣習が広まったことが記されている。

第３問　中世の京都

第３問では，正誤を組み合わせる問題が３問，４つの文から誤文を１つ選ぶ問題，年代整序問題がそれぞれ１問ずつ出題された。誤文を選択する問題や年代整序問題は，いずれも基本的な知識で対応できる問題だった。特筆点として，経済の動きを模式的にあらわした図を用い，かつ組合せを８つの選択肢から選ぶ問題（問5）が出題されたことがあげられる。

問１　12　正解は①。

X　「戦国時代の京都における商業の中心地を調べる方法」に関する,「発掘調査の報告書」によって「まとまって出土」する対象として適当なものは,**甕**（→a）。会話文では,「この頃の酒屋にはたくさんの銭が集まっていたんだろうね。もしかすると，黒い丸の場所の地中にはものすごい量の銭の入った容器が眠っているかもよ」とされていた。銭などが入った「容器」として利用されたのは，**甕**である。

b　京都における商業の中心地を調べる方法として，**農具**は適切ではない。

Y　「戦国時代の京都における商業の中心地を調べる方法」に関する，「史料や京都を描いた絵画」によって,「所在した場所」を調べる対象として適当なものは，**見世棚**（→c）。見世棚は常設店舗で，資料集などに掲載された『**洛中洛外図屏風**』などで確認できる。

d　中世の**関所**は，関銭を徴収するために設置され，経済的機能を持った。ただし，戦国時代において，戦国大名の多くは交通・商業の発展を阻害する関所を撤廃する措置をとった。戦国時代の京都における関所の存在を，仮に史料や絵画で確認できたとしても，その場所が商業の中心地であることを裏づけるものとはいえない。

問２　13　正解は③。

Ⅱ　「極楽浄土を表現した阿弥陀堂を中心とする法成寺が造営された」のは，**国風文化**期（政治史的には，**摂関政治**期の**11世紀前半**）。**法成寺**は，**摂関政治**の全盛期を現出した**藤原道長**によって，11世紀前半に造営された。

Ⅰ　「法皇が法勝寺を造立」したのは,**院政期の文化**の時期（具体的には**11世紀後半**）。「法皇」とは，**院政**を開始したことで知られる**白河法皇**（白河天皇，白河上皇）のことである。ただし，教科書で「白河天皇が法勝寺を造立」などとされているように，厳密には，白河天皇によって，1077年に造立された（譲位して上皇となったのは1086年，出家して法皇となったのは1096年）。

Ⅲ　「禅宗が宋から伝来し，禅宗寺院が建立された」のは，**鎌倉文化**期。**禅宗**の一派である**臨済宗**は，12世紀末，**栄西**によって伝えられた。

問3 14 正解は④。

a　誤文。b　正文。**史料1**（室町幕府が京都で発布した撰銭令）では「永楽銭・**洪武銭**・宣徳銭**は取引に使用しなさい**」，**史料2**（「大内氏が山口で発布した撰銭令」）では「さかい銭・**洪武銭**・うちひらめの三種類のみを選んで**排除しなさい**」とされているように，**洪武銭**については，**史料1**の室町幕府の撰銭令では**通用を奨励**，**史料2**の大内氏の撰銭令では**排除を指示**しているため，bの「使用禁止の対象とされた銭の種類が一致していない」は正しく，aの「使用禁止の対象とされた銭の種類が一致している」は誤り。

c　誤文。d　正文。**史料1**では「**永楽銭……は取引に使用しなさい**」とされていた。永楽銭が取引に利用されていたのであれば，あえてこのような指示をする必要はないと考えるべきである（つまり，**永楽銭は取引の際に使用を回避されていた**と考えられる）。**史料2**では「**永楽銭……については選別して排除してはならない**」とされていたため，**永楽銭**は，**市中において「排除」されていた**と考えられる。したがって，dの「永楽通宝は京都と山口でともに好んで受け取ってもらえず」は正しく，cの「永楽通宝は京都と山口でともに好んで受け取ってもらえ，市中での需要が高かったことが分かる」は誤り。

問4 15 正解は④。

④　禅の世界を具現化したのは，「大和絵」ではなく**水墨画**（「禅の世界を具現化した大和絵」は誤り）。**『瓢鮎図』**は，**北山文化**期に**如拙**が描いた水墨画である。

①　**『鳥獣戯画』**は，**院政期の文化**の時期の絵巻物。

②　**『愚管抄』**は，**鎌倉文化**期に，**慈円**によって著された。

③　「立花様式」は，**東山文化**期に，**池坊専慶**によって大成された。

問5 16 正解は①。

X　「中国大陸」からもたらされたのは，**鋳造された銭**（→a）。**問3**にみえる洪武銭・永楽銭・宣徳銭は，中国大陸からもたらされた**明銭**である。

b　「**産出された金**」は，中世の貿易において，日本から中国などに輸出された。

Y　「京都の市場⇔地方の主要都市（都市内の市場）⇔荘園（荘園内の市場）⇔京都の市場」に該当する語句は，**為替**（→c）。為替は，遠隔地間の取引や貸借の決済において，現金ではなく手形や小切手などの信用手段を用いる方法。

d　「**借上**」は，鎌倉時代を中心に活動した金融業者。

Z　**中世**においては，「荘園」から「荘園領主」には，貨幣経済が浸透するなかで，**代銭納**（→e）がみられるようになった。

f　「**酒屋役**」は，室町幕府が金融業者である酒屋に課した税。

第４問　江戸時代における人々の結びつき

正誤を組み合わせる問題が２問，４つの文から正文を１つ選ぶ問題，２つの文の正誤を判断する問題，年代整序問題がそれぞれ１問ずつ出題された。大問の全体像を把握したうえで最も適当なものを選ぶことが求められる問題（**問5**）が出題されていたものの，多くの問題は教科書を中心とした学習で対応可能と思われるものであり，史料の読み取りが求められた問題も，かつてのセンター試験に近い形式の問題だった。

問1　17　正解は②。

ア　17世紀前半には，「**諸大名が江戸に屋敷をかまえ国元との間を往来するようになった**」（→a）ことなどによって，江戸と全国を結ぶ陸上交通が発達した。「諸大名が江戸に屋敷をかまえ国元との間を往来」した**参勤交代**にともない，大名の妻子は江戸定府とされ，国元に帰ることは許されなかった。そのため，「**入鉄砲に出女**」を取り締まることを目的に，東海道では**箱根**と**新居**に**関所**が設置された（→b，「箱根の関や新居の関といった関所が廃止された」は誤り）。

イ　17世紀中頃までには，「年貢米や材木など大量の物資を運ぶ」（→d）ために，水上交通も発達した。教科書には，大量の物資を安価に運ぶためには，陸路より水上交通が適していたこと，17世紀の初頭から河川舟運が整備されたことなどが記されている。

「御蔭参り」とは，伊勢神宮への参詣のこと。室町時代から民衆のあいだで行事化しており，17世紀前半にも確認できるが，水上交通の発達は，御蔭参りと密接な関係にあるわけではない。本問は「正しいもの」ではなく，「**最も適当なもの**」が問われていた。「最も適当なもの」であれば，相対的にふさわしいものを選択する必要がある。

問2　18　正解は①。

Ⅰ　「輸入生糸を糸割符仲間に一括して購入させる」**糸割符制度**が開始されたのは，**17世紀初頭**。

Ⅱ　「十組問屋が結成された」のは，**17世紀末**。

Ⅲ　「商人や職人の仲間を株仲間として広く公認したほか，銅座や真鍮座，人参座を設けた」のは，**18世紀後半**。**田沼時代**について説明した文である。

問3　19　正解は③。

X　誤文。**解説**には「中段の記載からは，仕えている藩の名前なども確認できる」とされており，**史料1**には「津山藩」（美作国，現在の岡山県），「備前藩」（備前国，現在の岡山県）が記されていた（「**史料1**に載る文化人は，江戸を居所としていたので，関東以外の場所に領地を有する大名には仕えることができなかった」は誤り）。

Y　正文。**解説**には「上段の『梧潤（ごじゅん）』などは彼らが文化人として名乗った名前であり，

右肩には，『書』など彼らの得意とする文化ジャンルが小さく書かれている」とされており，**史料1**の「右肩」に「蘭学」と記されている者が記されていた（「**史料1**に載る文化人の中には，書画などを得意とする者だけでなく，西洋の学術・文化を研究している者もいた」は正しい）。

問4 20　正解は①。

a　正文。「厦門海防庁許氏より咨文一通，寧波府鄞県黄氏より咨文一通差し送り，（中略）菅沼氏より回咨二通，両所に相渡さる」とあり，「許氏」「黄氏」は中国，「菅沼氏」は日本の役人であるため，「漂流民の送還に当たって，中国の役人と日本の役人との間で公文書がやりとりされた」は正しい。

b　誤文。「船頭鄭青雲，財副林栄山，外（ほか）に童天栄・黄福，この二人は日本に渡海馴（な）れたる者」は，漂流民送還に関わっているが，「中国の役人」が送還に関わったことが記されていないため，「漂流民の送還に当たって，中国の役人が日本まで同行して漂流民を送還した」は誤り。

c　正文。幕藩体制下において，長崎には中国・オランダの貿易船が来航を許可された。しかし，これらの国は，**正式な外交使節の往来のない**，**通商国**とされた。これに対し，正式な国交のある**通信国**とされた**朝鮮**からは通信使，**琉球王国**からは慶賀使・謝恩使といった使節が江戸に参府した。

d　誤文。**史料2**は，「日本の船が漂流して，1751年に中国に漂着した件」に関するものだった。**1715年**，新井白石のもとで出された**海舶互市新例**などで知られるように，長崎貿易について，貿易量を制限する措置がとられていた（「この漂流事件が起きた当時，中国から日本に来航する貿易船の数や貿易額はまだ制限されていなかった」は誤り）。

問5 21　正解は②。

②　会話文では，「人口の大半を占める百姓たちは，日頃は村で過ごして，村や地域の中で深い結びつきをもっていたんじゃないかな」とされていた。江戸時代の年貢納入は，村が一括して納入する**村請制**がとられた（**→第1問－問4・ア**，「江戸時代における村民の結びつきは強く，幕府もそれに依拠して年貢などの諸負担を村全体の責任で請け負わせたと考えられる」は正しい）。

①　会話文には，「同じ主君に仕える家臣たちは，主君の家の一員とみなされ」とあった。この表現は，実際の家の一員ではないことを示唆するものだった（「彦根藩井伊家のような大名の家臣団は，主君と家臣が血縁によって結びついている集団だと考えられる」は誤り）。

③　**史料 1** やその**解説**（**問 3**）からは，「小傳馬町（こでんまちょう）」に居住する「小松彌七（こまつやしち）」という人物が「書」を得意としていたことが読みとれる。ここから，町人らも文化の担い手だったと類推できる。また，教科書にも，**俳諧が町人や富農のあいだに広く普及した**こと，町人の社会において**狂歌や川柳が流行した**ことなどが記されている（「俳諧や川柳を町人がたしなむことも許されなかったと考えられる」は誤り）。

④　1827 年，幕府は関東取締出役の下部組織として，関東すべての農村に対して**寄場組合**を組織させた。近隣３～６か村で小組合を結成させ，10 前後の小組合を連結して大組合とし，関東取締出役の指示のもと連携して治安維持にあたらせるものだった。「奉公人や出稼ぎ人」は都市で増加したため，「彼らに寄場組合をつくらせ」は論理的に矛盾すると気づいたはずである。

第５問　幕末から明治にかけての日本

小問数は４問で，内訳は正誤を組み合わせる設問，４つの文から正文を１つ選ぶ設問，２つの文の正誤を判断する設問，年代整序問題がそれぞれ１問ずつ出題された。特筆点としては，発言の正誤を判断する設問（問４）が出題されたことがあげられるが，全体的には昨年度に比べてシンプルな設問が多く，解答を出すのに多くの時間を必要としなかったのではないかと思われる。

問１　22　正解は④。

X　「牧野りん」は，**メモ**で「1860年生まれ」とされていた。「牧野りんが4歳になる頃，この地が，イギリス・フランス・アメリカ・オランダの連合艦隊によって砲撃された」の「この地」とは，**下関**（→b）。イギリス・フランス・アメリカ・オランダの連合艦隊は，1864年，攘夷運動の中心だった長州藩に打撃を与えることなどを目的として，下関を砲撃した（**四国艦隊下関砲撃事件**）。

a　**鹿児島**では，**薩英戦争**が展開された。1862年８月，**島津久光**の一行が，江戸からの帰途，横浜近郊の生麦村で，**イギリス人**を殺傷した（**生麦事件**）。この事件を契機として，翌年７月に**薩英戦争**が起こった。

Y　「牧野りんが13歳になる頃，新しく設立された内務省の長官（卿）に，この人物が就任した」の「この人物」とは，**大久保利通**（→d）。**内務省**は，**明治六年の政変**後の1873年11月に設立された，地方行政・警察・土木・戸籍など，内政全般を管轄する中央官庁だった（初代内務卿**大久保利通**）。

c　**寺島宗則**は，1870年代後半，**外務卿**として条約改正交渉を推進した。

問２　23　正解は⑤。

Ⅲ　「伊勢神宮の御札などが降ってきたことを機に，人々が乱舞する」**ええじゃないか**が流行したのは，**1860年代後半**。

Ⅰ　「政府が軍人と警察官以外の者の帯刀を禁止したことなどに不満を抱いた士族たち」が熊本で**敬神党（神風連）の乱**と呼ばれる反乱を起こしたのは，**1870年代後半**。

Ⅱ　「洋装での舞踏会を催すなど，欧化政策をとった」**井上馨**が，「条約改正交渉に関して世論の反発を受け，外務大臣を辞任した」のは，**1880年代後半**。

問３　24　正解は②。

X　正文。「男子……教えを受けざるはなし……世の中に奔走して弘（ひろ）く人と交（まじわ）るが故に，女子……人交りも得せぬ様にせられぬるものとは，其の知識の進みも大なる差異（たがい）あらねばならぬ訳なるべし」，「男子のすぐれたるもの女子よりも多かるの理は，**教うると教えざるとの差（たが）い，又世に交ることの広きと狭きとに依（よ）る**ものにて，自然に得たる精

神力に於(おい)て差異あるものにははべらぬぞかし」とあるため，「岸田俊子は，男性と女性との知識の差は，教育や人的交流の機会の差によって生じたものだと述べている」は正しい。

Y　誤文。「史料は，岸田が1884年に発表した」とされていた。**国定教科書制度**は**1903年**に導入されたため，「史料が書かれた当時の女性は，小学校で国定教科書に基づく義務教育を受けていた」は誤り。

問4　25　正解は④。

3人の時代考証に関する発言の正誤を判断する問題。

タク：「設定上，りんの父が屯田兵となっているけど，史実として，りんの父が亡くなる前に屯田兵に応募できたのは平民だけだよね」は，**誤り**。**屯田兵**は**1874年**に配備が決定し，翌年には各地に屯田兵村が設置され，宮城・青森・酒田3県などの士族らが移住した（屯田兵制度は，士族授産の一環としての側面もあった）。しかし，北方の国境問題に関してはロシアとの緊張関係が希薄になったことなどから，重点は防備から開拓へと移行し，平民も募集の対象となった。したがって，「りんが16歳の時」にあたる1876年にりんの父は亡くなったことになるが，この時期に関わらず，**屯田兵の対象は士族のみから平民へと拡大した**ため，「りんの父が亡くなる前に屯田兵に応募できたのは平民だけ」は**誤り**。

ユキ：「史実として，憲政党の結成は，りんが設定上で結婚した年よりも後のことだよね」は，**正しい**。「20歳の時」にりんは結婚したと設定されているため，りんの結婚は**1880年**であるが，**憲政党**が結成されたのは**1898年**である。

カイ：「設定上で，りんがドイツに滞在していた期間に，史実として，明治政府の要人がドイツで憲法調査を行っているよね」は，**正しい**。設定では「21歳から8年間，夫とともにドイツで暮らした」とされていたため，りんは，**1881年から1889年まで**ドイツに滞在していたことになる。「明治政府の要人」は**伊藤博文**。伊藤博文は**1882年**に渡欧し，ドイツ・オーストリアで，それぞれグナイスト・シュタインに学ぶなど，憲法調査を行った。

したがって，④の「タクさんのみ間違っている」が正答となる。

第6問　旅

小問数7問のうち，正誤を組合せる問題が2問，4つの文から正文を選ぶ問題が2問，2つの文の正誤を判断する問題が2問，空欄補充問題が1問出題された。史資料を用いた読解が求められる問題が複数出題されており，解答を選択するまでにある程度の時間が必要だったと思われる。

A

問1　26　正解は④。

ア・イ　政府は，1872年，**フランス**の学校制度にならって，**国民皆学**を理念とする**学制**を公布した。学制は，学問が個人の立身・出世のためにあるとする功利主義的な教育観を唱えていた。同法によって全国が8大学区に分けられ，さらに大学区の中に中学区・小学区が設けられた。政府は国民皆学を理念に掲げて教育を国民の義務とし，小学校教育の普及をはかろうとした。しかし，**学校の建設費や授業料の負担は重く**，**学区制**はそれぞれの**地方の実情を考慮しない画一的な制度**（→ア）だったため，**学制反対一揆**が起こった。そのため学制は廃され，1879年，**アメリカ**の制度に範を取り，自由主義的な教育方針を取る**教育令**が公布された。

第二次世界大戦後，教育の民主化を進めるために，1946年3月にGHQの招請によりアメリカ教育使節団が来日した。その勧告にもとづいて，翌1947年，教育の機会均等，義務教育9年制，男女共学などを規定した**教育基本法**が制定された。同時に六・三・三・四制の新学制を規定した**学校教育法**（→イ）が制定された。

問2　27　正解は①。

「修学旅行の歴史」の年表では，「**1896年**　長崎商業学校がはじめて海外修学旅行を実施する（**上海**）」とされていた。

X　正文。アヘン戦争でイギリスに敗北した清国は，**1842年**に南京条約を結び，上海など5港を開港して香港を割譲した。「安政の五カ国条約」は，**1858年**に締結された（「修学旅行生が『国際的繁栄の都市』と称した上海は，安政の五か国条約の締結よりも前に開港していた」は正しい）。

Y　正文。日清戦争の戦端は**1894年**に開かれ，翌**1895年**に講和条約である**下関条約**が締結された。**史料1**には，「『東洋鬼』の罵声（ばせい）を浴び」，「戦勝の結果利権を得て新設された東華紡績工場の見物」とあった。（「修学旅行生は，日清戦争の勝利で日本が得た利権の一端を目撃したり，清国の敗北に対する上海市民の反応を体験したりした」は正しい）。

問3 28 正解は④。

④ **表1**では「23～25日　大連・**旅順**」とされていた。**関東都督府**は，1906年，**旅順**に設置された（「関東都督府は23～25日の訪問地の一つにかつて設置されていた」は正しい）。

① **表1**では，「14～15日　釜山・京城」とされていた。したがって，訪問地は朝鮮である。朝鮮総督府は，韓国併合条約が締結された1910年に設置された。初代朝鮮総督には，**寺内正毅**が任じられた（「初代総督は桂太郎」は誤り）。

② **表1**では，「17～18日　奉天・撫順（ぶじゅん）　鴨緑江（おうりょくこう）・炭鉱・工場」とされていた。「奉天・撫順（ぶじゅん）」は，**満州国**に含まれる地名である。**表1**の「22日」からは「奉天神社」を訪れていることが確認できるため，「17～18日の訪問地で神社を訪れていないのは，外国である満州国に神社がなかったからである」は誤り。

③ **表1**では，「22日　奉天」とされていた。「日中戦争のきっかけとなる」衝突として知られる**盧溝橋事件**は，1937年に**北京**郊外で起きた（「日中戦争のきっかけとなる衝突は22日の訪問地の郊外で起きた」は誤り）。奉天郊外では，1931年，**満州事変**のきっかけとなる**柳条湖事件**が起こった。

B

問4 29 正解は②。

a　正文。**表2**では，「勤続年数３年以上」の労働者の比率の最大値は，炭鉱Ｆの**21％**（＝勤続年数３年未満は**79％**）であることが確認できる。したがって，いずれの炭鉱においても労働者の**３分の２以上**が「勤続年数３年未満」だったことがわかる（３分の２は**約66.7％**）。一方，「１年未満が最も多かった」ことは，**表2**から瞬間的に正しいと判断できたはずである（「**表2**によると，いずれの炭鉱においても労働者の３分の２以上が勤続年数３年未満であり，１年未満が最も多かった」は正しい）。

b　誤文。**表2**のＡからＦは，「**３年以上**」**の勤続年数の比率が少ないほうから並んでいる**ことが確認できる（＝ＡからＦは勤続年数が短い順に並んでいることが確認出来る）。一方で，他府県出身比率（％）は，ＡからＦの順序で高くなってはいないことが確認できる。たとえば，「勤続年数３年未満」の比率が98％（61＋29＋8）で，もっとも高い（勤続年数のもっとも短い）Ａ炭鉱では，他府県出身比率が49％であるが，「勤続年数の３年未満」の比率が93％（64＋23＋6）で，Ａ炭鉱よりも勤続年数が長いことが確認できるＢ炭鉱の他府県出身比率は35％で，他府県出身比率と勤務年数の短さは比例していないことが確認できる（「他府県出身の労働者が多ければ多いほど，勤続年数が短くなる傾向があった」は誤り）。

c　誤文。**史料2**では，「亭主は一足先に入坑し切羽(きりは)に挑んでおる。女房は……いとけない十才未満の倅(せがれ)に幼児をおわせ，四人分の弁当（中略）担(かた)げてワレも滑らず，うしろも転ばぬ様に気を配りつつさがり行く」とされているため，「炭鉱内に女性は入ることができず，炭坑労働者の妻は夫の弁当を男の子に届けさせなければならなかった」は誤り。

d　正文。**史料2**では，「他人に幼児を預けると十銭（中略）いるから大変，よって学校は間欠(かんけつ)長欠になる」とされていたため，「子供の教育よりも家計を優先する炭鉱労働者がいた」は正しい。

問5　30　正解は③。

「当時」が「訪日客誘致を目的にジャパン・ツーリスト・ビューロー設立(**1912年**)」であることを，最初に確認しておく必要があった。

③「1912年」の「貿易赤字」などについては，**2個師団増設問題**などを想起して，正しいと類推することができたはずである。

1911年に成立した第2次西園寺公望内閣は，**1907年（明治40年）の恐慌**以来の**慢性的不況や国際収支の悪化**に直面するなかで，緊縮財政政策をとらざるをえなかった。そのため，同内閣は，陸軍による朝鮮半島への2個師団増設要求を拒絶し，1912年に2個師団増設問題が発生した（「当時の日本は，産業革命のなかで生じた貿易赤字に苦しんでいた。この問題を，訪日客がもたらす外貨で緩和させる意図があった」は正しい）。

①　1909年から推進された**地方改良運動**は，地方自治体の財政再建，農業振興，民心向上などを目的とする運動だった（「外国人を日本各地に移住させる目的で，地方改良運動が行われていた。この成果を，訪日客の見聞を通して世界に知らせる意図があった」は誤り）。

②　**ファシズム**が台頭したのは，**昭和初期**であるため，「日露戦争による日本でのファシズムの高まりが懸念されていた」は誤り。

④「アジア」で民族自決原則に基づく独立運動が活発化したのは，**大正時代**（「日本以外のアジアでは民族自決原則に基づく独立運動が活発化し，治安が悪化していた。そのため，訪日客が増大するという期待があった」は誤り）。1919年に朝鮮半島で展開された**三・一独立運動**，中国で発生した**五・四運動**を想起できれば，誤文と判断できただろう。

問6　31　正解は②。

沖縄返還協定が1971年に締結され，翌**1972年**に**沖縄返還**が実現したことを把握しておく必要があった。

a　正文。b　誤文。**見出し一覧**では「1975年に『沖縄海洋博』 復帰記念し大々的に(**1971年**３月)」とされていたため，aの「海洋博の開催は，沖縄がアメリカ施政権下にあった時期から検討されていた」は正しく，bの「沖縄の施政権が日本に返還されてから始まった」は誤り。

c　誤文。d　正文。**見出し一覧**では「海洋博２か月　**観光客は増えても本土の資本が吸いあげ**(1975年９月)」，「海洋博が去った沖縄　**倒産・失業だけが残った**　聞こえてくる本土への恨み節……(1976年９月)」とされていた。したがって，dの「海洋博の開幕で観光客が増えた後も，経済的な利益を得ているのは本土の企業であると，沖縄では不信感が募った」は正しく，cの「海洋博の開幕で観光客が増えると，海洋博による沖縄の景気回復を歓迎する論調が優勢になった」は誤り。

問7　32　正解は④。

X　誤文。西ヨーロッパでは，冷戦が激化するなか，1949年，アメリカと西欧諸国との共同防衛組織である**北大西洋条約機構**（ＮＡＴＯ）が結成された。日本は，1951年９月，サンフランシスコ平和条約と同日に日米安全保障条約を締結し，西側陣営に組み込まれた。しかし，東アジアにおいて，「アメリカを中心とする多国間の共同防衛組織」は結成されなかったため，誤り。

Y　誤文。1954年，中華人民共和国とインドが首脳会談を開き，周恩来とネルーが「平和五原則」を確認した。この精神に各国が賛同し，翌1955年，第二次世界大戦後に独立を達成した新興諸国を中心に，インドネシアの**バンドン**にて29カ国が参加し，**インドと中国が中心**となって，**アジア・アフリカ会議**（**バンドン会議**）が開催された。したがって，「新興独立諸国との親善を目的に，日本の主催により，第１回アジア・アフリカ会議が東京で開催された」は誤り。